ブルンジ月報（2019年9月）

主な出来事

【内政】

● 3日、カガヨ・グッド・ガバナンス担当大臣は、汚職撲滅のためのアフリカ憲章実施に関する中央アフリカ地域向けワークショップに参加した。

【経済】

- 世界銀行のブルンジにおける7件のプロジェクトのうち、6件が中止となった。
- 17日、外貨両替所設立に関する新しい規制が定められた。
- 23日、世界銀行ブルンジ事務所は、ブルンジの電力事情を大幅に改善する Murembwe 水力発電所ダムの建設に着工した。
- 19日、ブルンジ財務省は、世界銀行ブルンジ・オフィスとの間で、3,000万米ドルの「子どもと人口統計管理」プロジェクト協定に署名した。

【その他】

● 13日、赤十字ブルンジ事務所は、第一次救急救命の重要性を訴えた。

※以下は、明示したものを除き、ブルンジ・オンライン・メディア Iwacu の報道を取りまとめたもの。

【内政】

・ ブルンジの汚職対策（4日）

3日、カガヨ・グッド・ガバナンス担当大臣は、汚職撲滅のためのアフリカ憲章実施に関する中央アフリカ地域向けワークショップに参加し、ブルンジは、反汚職特別班や反汚職特別裁判など公的機関を管理する国家委員会を設置するなど、汚職対策において良い結果を達成したと述べた。一方、同大臣は、汚職を成功裏に撲滅するには長い道のりがあり、日々の使命であると述べた。

【外政】

・ ブルンジ難民が居住するタンザニアの難民キャンプにおける市場閉鎖（16日）

9日以降、ブルンジ難民が居住するタンザニアのニャルグス・キャンプの市場が閉鎖されている。10月1日から大量の難民帰還を進める合意がタンザニアとブルンジの間で署名されて以降、状況が悪化している。市場閉鎖の決定は、タンザニア、ブルンジ、UNHCR間で署名した協定に基づき、タンザニア政府が9月に予定されている自発的帰還を停止した数日前に実施された。

【経済】

・ ブジュンブラ市におけるセメント不足（５日）

ブルンジ製のセメントがブジュンブラ市で不足しており、正確な情報がないまま購入ができない状況が続いている。

・ 世界銀行（WB）のプロジェクト7案件のうち6件が中止（10日）

7案件のWBのプロジェクトのうち、大湖地域における貿易促進に係る1案件のみが実施される。WBブルンジ事務所広報官によると、サブ・サハラ・アフリカで提出された約25案件のうち3案件のみが担保されている。同事務所は、ブルンジにおいて、農業、コミュニティ開発、教育、電力、健康、HIV/AIDS対策、運輸、水のアクセス分野のプロジェクトで支援している。

・ 外貨両替所開所に関する新規制（18日）

17日、チーザ（Jean CIZA）ブルンジ中央銀行（BRB）総裁は、記者会見にて、「公平性強化のため、外貨両替所の開所に係る最低資本金を5,000万ブルンジ・フランから1億ブルンジ・フランに引き上げる」と発表し、業者が新しい規制に応じるために1年間の猶予を与えた。BRBは、外貨両替所に対して、顧客に売買レートを見せながら両替を行うことを求め、BRBの代理店は、両替所を管理するために領収書のコピーを請求することができる。また、1か所以上の外貨両替所の保有が禁止された。

・ 世界銀行（WB）による Murembwe 水力発電所建設着工（24日）

23日、カレット（Jean Christophe CARRET）WBブルンジ事務所長は、Murembwe 水力発電所建設着工式に際して、同水力発電所は49.5メガワットを発電し、ブルンジでの電力へのアクセス率を改善し、少なくとも国民の半数が同プロジェクトの恩恵を受けると述べた。同プロジェクトの建設工程は42か月を予定しており、WBから1億米ドル、欧州投資銀行から9,500万米ドル、アフリカ開発銀行から2,200万米ドル、ブルンジ政府から1,450万米ドル、Regideso社から250万米ドルが拠出される。専門家によると、現在、70メガワットの電力需要に対して、35メガワットしか供給されていない。

・ 中央回廊の活用推進（19日）

国際運輸オペレーション協会（ATI B）ブルンジ事務所は、ブルンジの経済関係者に鉄道でダルエスサラームーキゴマを通り、キゴマから水路でタンガニーカ湖を渡りブジュンブラへ入る中央回廊を使うよう奨励した。同協会の専門家は、ダルエスサラームからブジュンブラまで陸路での運送には最短でも72時間を要するが、同中央回廊を使った場合には、60時間で製品の運搬が可能となり、事故や通関所、夜盗なども避けられる。また、陸路では1台のトラックで25トンまでしか運べないが、ブルンジには1,800トンを積載できる船があり、費用を40%削減できると述べた。

・ 世界銀行「子どもと人口統計管理」プロジェクト協定の署名（20日）

19日、ブルンジ財務省は、世界銀行（WB）との間で、出産年齢の女性、特にゼロ歳児から2歳児までを中心とする5歳以下の子どもの栄養改善、家族計画プログラム、農業セクターへの支援を目的に、2023年までに3,000万米ドルを支援する「子どもと人

口統計管理」プロジェクト協定に署名した。同プロジェクトは、ブルンジ6県で実施され、45万人の出産年齢に該当する女性及び38万人の5歳以下の子ども、38,000世帯の貧困層家庭が裨益する。

【その他】

・ 一次救急救命の重要性（13日）

14日の世界救急救命の日に関連して、赤十字ブルンジ事務所は、ブルンジの一次救急救命の改善の必要性を訴えた。また、カチユングルザ（Anselme KATIYUNGURUZA）ブルンジ赤十字代表は、家族の中で最低でも一人が一次救急救命について周知している必要があり、赤十字はブルンジにおいて啓発キャンペーンを計画していると述べた。

・ ブルンジ南部にある小学校の悲惨な学習環境（26日）

2018/19年の国家試験で最下位であったブルンジの南部のルモンゲ（Rumonge）県ムガラ（Mugara）第二小学校のほとんどの児童は帰還民であり、多くの教育設備が不足している。1、2年生は机がなく、児童は石やほこりに覆われた地面に座り、4人の児童が1台の机を共有している。同校は水も不足しており、コレラの発生が懸念される。教科書やその他の学校設備も不足している。

（了）